

# かんしや



お互い助け合う「感謝」の気持ちと「諫早市社会福祉協議会」の意味を込めて名付けました。末永く皆さまに愛される広報紙を目指しています。

2021  
Vol.191



## 顔の見える関係が 災害につよい まちづくりへの第一歩

平年より早かった梅雨入りの影響で、今年は長い梅雨となりそうです。

梅雨期は、大雨による災害の発生しやすい時期。あの日、あの時の不安な気持ちを忘れないうちに、もしもの時に備えて、災害時に何をすべきか、考えてみませんか。

特に高齢者や体の不自由な方などの避難は、どうしても周囲の方の支援が必要となります。困っている人の手伝いができるように。日頃から顔の見える関係づくりが、災害時の助け合いへとつながります。

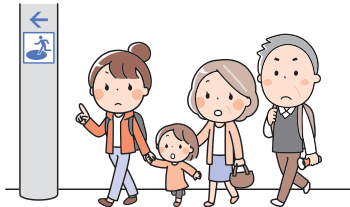
現在、市内では2,912名の方が、諫早市要援護者台帳に登録しています。登録者へは、災害時や緊急時に備えて、日頃から見守り活動も可能となります。

ふだんの暮らしの中で結びつきを強めることが、地域の力を高め、「安心して暮らせるまち」へとつながります。

# 自分や家族の命を守るために

## 避難勧告から避難指示へ一本化！

避難を促す情報がシンプルになりました。  
災害の恐れがある警戒レベル3は「高齢者等避難」に。「避難指示」が出たら、危険な場所にいる人は直ちに避難をするようになりました。



## 災害図上訓練でリスクを見える化！

例えば、身の回りの地図を使って、発生する災害をイメージしながら「災害図上訓練」も効果的です。避難経路や避難場所はもとより、高齢者や体の不自由な人など見守りが必要な人の確認も忘れずに。地図は、そのままハザードマップとなる優れたものです。



# もしもの時 頼りになるのは 地域のチカラ

## 遠くの親戚より近くの他人

災害は、いつ・どんな状況で起こるかわかりません。もしもの時に頼りになるのは、地域とのつながり。日頃からのあいさつや、会話で交流を深めることも大切なことの一つです。  
顔見知りの関係が、災害時の声かけとなり、避難行動に結びつきやすくなります。

## 心ひとつに

一人ひとりにできることは、限りがありますが、力を合わせると大きな力に変わります。  
住民同士がつながれば、災害への新たな対応が生まれ、「災害に強いまち」へとつながります。  
助けたり、助けられたり。共に助け合う、互いに助け合う、その気持ちが地域の底力となります。

# 要援護者台帳登録制度

## 要援護者とは

生活の基盤が自宅にある人のうち、次のいずれかの要件に該当する人で、災害時に災害情報の入手、避難の判断又は避難行動を自ら行うことが困難で、第三者の支援が必要な人をいいます。

- ・ひとり暮らしの高齢者
- ・高齢者のみの世帯の高齢者
- ・昼間高齢者のみの世帯の高齢者
- ・身体に障害のある人  
(身体障害者手帳1. 2. 3級)
- ・知的障害のある人 (療育手帳A1. A2)
- ・精神障害のある人  
(精神障害者保健福祉手帳1. 2級)
- ・介護保険の要支援及び要介護認定者
- ・その他、第三者の支援を必要とする人

(出典：諫早市)

# ご存じですか

## 要援護者登録制度

要援護者が、緊急時や災害時、必要な支援が受けられるように、申請によって、個人情報登録する制度です。

台帳には、要援護者の住所、氏名、生年月日、連絡先、家族構成、そのほか支援に必要な情報が記載され、その情報は、市の関係部署や消防署、地域の民生委員・児童委員や自治会などに伝えられ、日頃の見守りや災害時の支援体制を整えるために活用されています。

災害等に備えて、高齢者や体の不自由な人の情報を地域と共有することで、市民一人ひとりにあった災害時の避難ルートや避難場所、手助けする支援者などを事前に決めておき、いざという時にスムーズに避難できる仕組みづくりです。



登録を希望される方は、お近くの民生委員・児童委員または市役所福祉総務課、障害福祉課、高齢介護課へご相談ください。

みんなので

咲かせる

地域の「わ」

西諫早小学校区社会福祉協議会

地域福祉活動計画できました

西小校区の自治会長・老人会長・民生委員・健全育成会など地域を支えている方々が集まり、西小校区の「未来」について話し合いを重ねてきました。

「自分たちの地域は、自分たちの力で作っていくかんばですもんね。」と社長の強い思いのもと、地域が抱える問題や課題を出し合い、解決していく方法を模索しながら、令和3年度から令和7年度の「校区社協地域福祉活動計画」が完成しました。



今こそ 必要なもの

西諫早ニュータウンが完成したのは昭和52年度。完成から40年以上が経過しました。完成当時は、働き盛りのサラリーマンが多数を占め、子どもたちの賑やかな声も響き

会長	辻 良彦
人	8,879人 (令和3年4月1日現在)

西小校区社会福祉協議会ってどんなことしているの？

- ふれあいいいききサロン(8箇所)
- ひとり暮らし高齢者の集い
- ふれあい食事サービス
- 地区懇談会(年4回)
- 世代間交流(年2回)
- 福祉協力員設置
- 広報紙発行

支え合いのネットワークづくりに努め、地域住民の交流を深めています。

地域でできる 取り組み

渡り、まち全体が活気づいていました。しかし、その子どもたちも大学進学や就職を機に地元を離れることに。経済成長期を支え、仕事第一に働いていた時には、さほど気にならなかった隣近所との付き合い。以前は思いもよらなかった不安や困りごとを感じるようになった今、地域とのつながりが非常に大切だと実感するようになったそうです。

自然災害は、いつ、自分たちの住む地域で起こるかわかりません。隣近所の見守りと声かけが、いざという時には必要。災害がおきる前に、地域の情報を分かち合い、支え合える仕組みづくりをつくろうと西諫早小学校区では、「災害図上訓練」を計画。指導者は、校区内に在住する防災士の方です。そこに住んでいるからこそ、地域に即した

訓練となりそうです。「住民同士のつながりを大切に、共に支え合う気持ちを大切にしていきたい」と、計画策定を終え決意を新たにしました。

西諫早小学校区社会福祉協議会 地域福祉活動計画

みんなではぐくむ 人づくりの「話」

地域の活性化につながる人づくりや、若者世代、高齢者世代とコミュニケーションを深める活動に取り組みます。

- 取り組み内容
- ①「広報紙」の充実  
地域の思いを発信し、住民の地区社協活動への関心を高めます。
  - ②「地区懇談会」の実施  
地域の話し合いを通じて、地域のネットワークに参加する協力を増やします。
  - ③「地区社協活動と連携した交流の場」の創出  
学校との連携による福祉人材の育成に努めます。
  - ④「福祉に関する講演会・研修会」の開催  
住民の福祉に関する理解を深め、活動のきっかけづくりとします。



子どもたちが地域の方と協力して、田植え、稲刈り、脱穀を行い、最後は餅つきをします。

みんなので支える 地域づくりの「和」

地域で顔見知りになるきっかけをつくり、地域で支えるしくみづくりに取り組みます。

- 取り組み内容
- ①「ふれあいいいききサロン」の充実  
高齢者の生きがいづくりと介護予防に努めます。
  - ②「ひとり暮らし高齢者の集い」の実施  
住民同士が気楽に話せる関係づくりに努めます。
  - ③「福祉協力員」の充実、組織化など  
地区社協構成委員の連携を深め、支え合える地域を目指します。
  - ④「世代間交流事業(通学合宿・地域子ども教室)」の実施  
地域で子どもたちの成長を見守ります。
  - ⑤「子育てサロン」の取り組み  
悩みを共有し、「困ったときはおたがいさまの気持ち」で支え合う地域づくりを推進します。
  - ⑥「地区社協ボランティア登録」の推進  
その人の持った力を地域に活かし、地域を活性化します。
  - ⑦「生活支援ボランティア」の実施  
住民が気軽に助け合う体制を作ります。

令和3年度～令和7年度【5カ年計画】

みんなので助ける 安全安心の「輪」

ささやかな見守りで安心して暮らせる地域づくりに取り組みます。

- 取り組み内容
- ①「見守り活動」の充実  
見守りを通して、誰もが安心して暮らせる地域を目指します。
  - ②「防災図上訓練DIG」、「防災訓練」の実施  
地域の防災の意識向上と災害時における要援護者の支援に努めます。



地域の方が協力して竹を切り、毎年1月に鬼火焚きを実施しています。

基本理念

みんなので咲かせる地域の「わ」

障害があってもなくても、働くことを通じ社会に参加する。そのような当たり前の生活を安心して続けていけるよう支援をしている「社会福祉法人 つかさ会」(理事長 志賀 正幸)を紹介します。

夢や願いを実現に

「働くことは障害があってもなくても等しく与えられた権利」。つかさ会は、働くことを希望してもなかなか叶えられない障害のある方の夢や願いを一つでも多く実現するために平成3年に設立。法人内で最初に設立された事業所が、目代町にある就労継続支援B型事業所「諫早ワークス」です。働く場であることを意識し、事業所名には「ワーク(働く)」が取り入れてあります。ここでは、一人ひとりの個性に応じた作業と環境づくりの中、皆さんが真剣に仕事に取り組み充実した日々を送っています。

社会人としての自覚

諫早ワークスでは、諫早市の指定ゴミ袋の製造、工業用ウエス加工などの作業を行っています。初めて通所する利用者の中には、作業の雰囲気戸惑い落ち着かない方も。それでも、職場でのルールやマナーを根気よく丁寧に教え、一人ひとりに合った作業や作業環境を工夫し、そして、周囲の先輩利用者が真剣に作業に取り組む様子に触れるうち、だんだんと集中し作業に向きあっていけるようになるそうです。「一人ひとりが社会人としての自覚を持ち仕事をするのが大事。そんな職場づくりが実績にもつながっていくんですよ」と理事長は話します。



信頼から実績と自信に

利用者から生み出される商品は、多方面から間違いがないとお墨付きがもらえるまでになりました。このような仕事に対する信頼は、業績にもつながり、今では諫早ワークスへの仕事の依頼は途切れません。利用者からは「自分が作った物が、商品として売られていることが嬉しい。これからは頑張っ続けていきたい」と働くことへの意欲にもつながっています。



共に生きるために

障害のある方が社会で働くためには「集団の中でのコミュニケーション能力を身に着けることも必要」と理事長。放課後等デイサービスでは、子ども達に大勢の前で自分の意見を発表するスピーチ大会を開催するなど、コミュニケーション能力を高める取り組みもしています。

「障害があってもなくても、同じ地域社会で共に生きる。諫早がそんな地域になるよう、一人ひとりの個性に応じた支援をこれからも続けていきたい」と熱く語られています。

社会福祉法人つかさ会  
諫早ワークス

諫早市目代町1816番地1  
TEL 24-6145

～自分のために みんなのために～  
新型コロナウイルス感染予防の取り組み

マスクを着用  
しましょう

うがいや  
手洗いを  
念入りにしましょう

編集発行 社会福祉法人 諫早市社会福祉協議会

〒854-0045 諫早市新道町948番地  
TEL 0957-24-5100 FAX 0957-24-5101  
ホームページ <http://isahaya-shakyo.jp>  
(諫早市社会福祉協議会で検索ください)

7月のふれあい福祉相談

無料 専門 相談	開設日	7月30日(金) 弁護士
	開設時間	午後1時30分～4時
	場所	諫早市社会福祉協議会 電話 24-5100

※専門相談は、10日前までに予約をお願いします。

Facebook

follow me

Instagram

諫早市社会福祉協議会だより「かんしゃ」では、広報誌に関するご意見、地域で行われる福祉活動や行事の情報を皆様から募集しています。